

# 関西労災監業病No.13

関西労働者安全センター

1975 5.20 発行

大阪市北区菅原町59日レコビル2F 岩井会内

06-358-2583 郵便振替口座 大阪 315742

40円

企業の労務管理は、労働者を多く雇うとする資本主義の考え方から、労働時間と賃金を安くする。この労務管理に健康な労働者と利潤追求に役立たない病気やケガの労働者を見分け、使用者を首切りするやり方である。企業の健診・治療はこの立場でなっている。現実、企業には必ず指定医療機関があり、いかに企業が良心的であろうと、企業健診と治療は上記の様な労

労働者を多く雇うとする資本主義の考え方から、労働時間と賃金を安くする。この労務管理は、労働者を多く雇うとする資本主義の考え方から、労働時間と賃金を安くする。

務管理として行なわれるのである。

例えれば、通信病院のエクトチームは職業病の原因は個人の体質だとみ組合運動のやりすぎだと言っている。では、これらの誤りを正すにはどうすべきか。健診や治療の主導権を企業や医者にまかせず、労働者がどうする事だ。

岩井計算センタ支部や高麗市職労では頸腕にわたる労働者に対して、企業が職業病でない限り、職業病として認めさせている。

この様な成果は、労働者の生命と健康を守る商いがなければ不可能である。

しかし現在、資本家

## 企業は労働者だ

例えば尼崎の全金富士鋼管支部では健診内容は労働者が自主的に健診内容を出しやすい。自分達の指定する医者は自分達が信用できる。全港湾上組分会もじん肺健診を自分でしていている。それには、まず職場から、自分達の健康を企業や医者に任せている。それには、まず職場から、自分達の健康を企業や医者に任せない労働者になり、それに反対する。

大量生産しようと、産業医大設立を目指して、管理強化のために企業医をめに企業医を上組分会もじん肺健診を自分達が信用できる。医者にさせ、健診結果は組合を管理し、それをもとに企業に補償要求を出した。また全金

# 南へ進む南大阪

## —南大阪労聯対の運動—

一九六〇年代の後半から七〇年代にかけて産業の再編成機械技術の導入によって合理化が進行し、港湾では取扱貨物の大型化によつて各施設では災害発生件数の増加と重災害の激発を余儀なくされた。当時は低賃金長時間労働という劣悪な労働条件のなかで「ケガと弁当は自分持ち」、「ケガする者はボンマリしてりる」といふ風に労働労働者は虫けらのように殺され傷つけられ、病人や負傷者は誰一人としてかばつてやるものはないなかつたのである。この様な状況の中で三港大災害を契機に総評では命とくらしを守る運動が高揚し、全港湾においても、安全運動の重要性が認識され来たのは日本化反対と軌を一にして災害

防止と災害発生に追及せなければいけないが、これが沿岸支部では今を去る四年前迄全代表を大阪労働大学に送り学習活動から出發し、組合独自の安全委員会を発足したのであるが、始めは安全委員会を発足したものの、港湾の災害防止協会の職場パトロールと同一規模でのパトロール活動に終始し、日う進めるべきかが、日本は専門横にし、専門労働者を育成し、資本と労働の關係を研究し階級的視点に立て安全問題をどうえ

ない限り解決は困難である：三河の受害斗争の教訓を生かし内部から苗発で迫り、オーネ資商協定を取り付け、行使による安全委員会反否定、駅場単位で組合独自の安全委員会の発足、災害発生時の抗議ストを敢行、安全委員会活動经费の業者団負担量を支部安全委員会と協定して本格的に取り組み、組織立等に對するヨイの中で日蓮同打開のために、公害争等を展開、勝利の突破口への役割を果して

この間文部省タレン  
捕獲と欠陥部の改善を  
労働者に迫り現在で日  
安全な電動式切替えグ  
うチに改善せしめだ

隨級田糧是口口口  
全港渣打銀行南

南支部安全委員会の活動は右のように確躍發展すると共に全園西に於ける安全斗争組織と連帶し、京大に於ける「毒物タレ流し糾弾斗争」に參加して京大安全センターの設立に協力し、京大安全センターは職場の取扱貨物の不鮮明な化学薬品の分析支援、又は騒音・粉じん測定等の協力を得て労働一体化した安全斗争が充実し、更には関西労働者安全センターの設置、南大飯労働対の設置等を経て、今日では医学者科学者を結集した広範な安全活動メンバーを集めめで災害源の除去斗争、被災労働者の救済斗争を展開するに至った。以上経過を踏まえ、当面の課題は被災労働者の医療体制の充実であり、南大阪の全労働

者を結集して独自の診療体制の構築を急がなければなければならない。

（文責 林委員長）

## 出稼者の外に学ぶた 神崎港運分会

昭和48年9月、神崎港運の沿岸荷役作業場で香川県の出稼農民労働者浦川さんが死んだ。浦川さんは作業開始2時間ぐらいいたつと、急に「気分が悪い。寒気がする」と仲間に訴えた。船内作業場から寮に帰り、救急処置をされないまま、3時間放置されたあげく「口からアツを吹いて」死亡した。その後、同現場には沿岸南支部神崎港運分会が結成された。当分会は浦川さんの死亡災害に対する斗争を展開する中で、

した。当分会の斗争を恐れた会社は、出稼労働者を集め、飲み食いさせたあげく「浦川さんの事は一切しゃべるな」と厳しいかん口令を出して斗争を弾圧した。支部は西野田労基署に抗議して斗争、オルゲの中意見書を作り局へ提出した。

現在、当分会は2人の少數組合を鉄の団結で守り抜き斗争続けている。当分会は西野田労基署の調査・オルゲの中意見書を作り局へ提出した。この際は、労災申請を引き延ばして、都市下層労働者臭の調査委員会もまで、

労災認定すると支部に言ひながら、昨年12月に西野田労基署は労災外認定にした。支

部労働者は怒りをもつた。この際は、全国出稼組合連合会も連帯して斗争、オルゲの大会で故浦川さんのお葬式は同じ出稼者にアピールした。

# じん肺患者多発で 極悪非道の上組資本

上組資本は、労働者を今まで虫けらのようには扱い、労働者はシリコンマンナンの粉塵をたちこめる職場で働くとされてきた。分会結成され、マンナンを扱っていき、労働者を自殺した通夜に労働者を結集して我々もこのままでは殺されるをし」という中から生まれた。

分会結成後、シリコンマンナンがん粉じんによる健康破壊をくいとめるために、健康調査、企業補償を確認させマジンナンの取扱いを中止された。昨年来、分会は支部と共に検診を要求し斗争始めたが、上組資本

の悪らつ極まる組合潰し攻撃の中で難行を続けた。上組は確認書さえ認めず検診をしようとしたが、たゞなり効果基局の指導で検診をせざるを得なくなるや、本田診療所を使って、駅場労働者の作業を奪い、我々もこのままでは駅場労働者の作業を奪おうとまでした。しかし、分会・支部は安全センターは連結を強化し、上組は支部の指導のもとに、健診をせざるを得ず、安全センター・上組は支部の指導のもとに、健診を行なう。(2)、その結果は全労界に公表する。(3)、上組労働者のじん肺健診を行う。(4)、じん肺法適用に努力する。(5)、じん肺患者に対する不当労働行為をさせない等を確認した。

現在、分会・支部は安全基署・企業を追及する。その結果21名中、13名のじん肺患者の発生が確認され、分会・支部も大きなショックを受けた。支部安全委員会は斗争針をぬり、「上組争争で、じん肺患者を多く発したが、この患者を単に病人でなく、斗う労働者でなければならぬ。また、自分達の斗争で健診を勝ち取ったのだから、補償も勝ち取れる事を確認してヨー

る斗いを続けている。

## じん肺有機溶剤中毒 職場で学習会

三井鉄構センターは48年に分会結成し、結成当時から、溶媒ヒュームが多発する職場という事を安全問題に對する関心は高まつた。安全センター・支部は分会と共に学習会を開き、じん肺の恐しさと有機溶剤中毒についてを学んだ。その後、シンナーの分析を行い、毒性の強いシンナーを解明するなど活動は続いた。今年に入つて、じん肺被疑者が発生し、それに対してモ斗いが続いている。

## じん臓病は助瘧病だ

鹽回送方案

申請をさせた。  
現在、西勢星雲と曰  
斗争中である。

初者、山本さんの方を  
申請の意見書を作り、  
企業と交渉し努力申請  
を要求しに。企業曰今

て明らかに、腎臓病は、

治政商支那ノクニシテ

延年七日、結成二日  
七度回送分合は、食廻  
石運搬、岩塙を崩碎。

の度を最初は全身に  
かかる。その後、尿  
が近くになり膀胱しやす  
い状態である。

この駄鳴で、南劇分  
会長は七年間弟仰レフ  
スケベスに。南さんは  
今から三年ぐらい前か  
らじん職病に罹り、昨  
年十一月から、聾不全  
といふこと云入院しに。  
足部は現場調査をし



米穀運送介会

じん肺・腰痛は、めんどこ

米穀運送分合は、大  
陸住民の半分近くの米  
を運送する駅場。この  
駅場の名前は、

毎日の歩行量は六〇Kgの重量物を毎日の様に運ぶために一時痛风

多忙で忙しくて、腰痛は  
就診を行つてゐる。企業  
病院のため、その後の  
処理は、何を出来未だ名  
乙は不満を高まり、腰  
痛用具はさうに工夫  
する。

曉痛認定圖

安全マニマーと更に機  
該開発等を現在準備し  
てある。

龍溪語類

大商分会

大流分出は、昨年、  
安全セニラー・尼崎男  
婦協と支那、安全環

妻の粉でもじん肺だ

大阪埠頭分會

大阪埠頭令会は、麦  
を運送する作業を行つ  
てりるが、ここの令会  
でも、也ん席題がも  
ち上り、現在、令会で  
の學習会と今後の対策  
を討議してりる。

自慢げん肺につけ  
資料があります

## 忠臣の傳記と確証

卷之三

●全港湾沿岸南支部會  
下の三井鉄構港運分会  
に於ける腰痛患者浦崎  
氏の救済について。

浦崎氏は全港湾に加入する以前にトラックに鋼材積込作業中、トランク上から転落して腰部を強打し、腰椎すべり症傷害を起して船

たが、後遺症のため元の勤務に服することが不可能となり、軽作業の配転場所がないといふ理由で会社と担当医には症状固定・打切りという宣告を行い、解雇を通告してきた。支部安全委員会とし

# 昭和分会

# 人のフレット紹介 金鉗と鍔 細川斗争記録

より顕著に局部が痛み出し、安全センターは大阪市立太田病院清水医師の協力を得て西界墓場に再発認定を申請。あらゆる局部検査の結果再発認定を勝ち取り現在では賃金百分保障により安静療養を行っていいる現状である。

ては、業務上の疾病を  
資本の意のままに切り  
捨てる事は許されな  
い、と断固資本の意志  
を因文の席上でハネ返  
し、職場復帰を認めさせ、現在では身体の許  
容範囲での軽作業を行  
うという確約のもとに、  
職場内で軽作業を行  
っている。

きさらし、夏は炎天下  
の中でのきびしい作業  
しかも、直徑253メ  
ートルの木材を3本も  
一本づりでつるし、船  
内から運び出す作業で  
ある。

大榮分会の多田經氏の傷害後遺症に対する再審査請求と歴史基署での再発認定について

大榮分會

用意する

# 肺過労の粉じん作業

川内力分会は過去に

離波島埠頭で沿岸着脱

作業に従事していた。

この作業場では、鉛研  
がしかれていたため、  
その粉じんが立ちこめ  
水散き糸の人を雇はない  
状態であった。この場  
から現在の大正埠頭へ移  
り換へて古参の一人にいん肺

が発生した事が昨年の  
暮れにわかった。分会  
支那は、古参労働者の  
健康を取り、生活を守  
ろうと、じん肺検診を  
進める体制を作ろうと  
している。

支那と林南大阪事務  
局長は、古市労基署と  
交渉し、奥いづけた。  
今年二月三日、古市労  
基署は、労災認定し才  
料紙と同時に障外認定  
し止。しかし、南さん  
は騎士付疾患の治療を  
受けている。認定は、  
治療や休業保障されば  
よい状態のままで放置す  
るところは対応しない。  
そこで労働者は、す

# 抗する企圖



全金大阪地区・港合  
同スロッケは、南大阪  
地区評議会職業病対策  
会議の結成に全面協力  
し、対策会議議長に大  
阪垂金支部楊井若賀長  
同事務局次長に田中機  
械支部清水吉記長を送  
り出した。同スロッケは  
は関税庫の組合瀬レ攻  
撃の中を、細川鉄工所  
で創り出した、東固

# 不當な障害認定

大阪金属加工支那組合連合会

大阪金属加工支那組合連合会  
スレス作業場の監督は、  
鋼板のスレス、スリップ  
ト作業に従事してあり、  
この作業場の南さんは、

X X X X X X X X X X X X X X  
全金大正スロッケ鋼  
管支那事務部は日本钢管  
の下請企業で、钢管を入  
する所を組みつけてある。



剛形亞鉄メッシュキ支部はイモノの表面に亜鉛の被膜メッシュを行なう作業に従事している。この作業中、水酸化ナトリウム、アンモニア、硫酸などアルカリや酸で表面処理をする。

馬形亞鉛支部

機関車は一時から  
ヒューバーになりま  
す。(一語多用)

「威を威を  
承認せよ」

文阪事務所

は起ころうとAの  
の元因を追求し、脳炎  
病開発を始めようとし  
ている。

國語

七  
後  
宮  
死

大同工業大學

日本アメソウ支那

日本アメソウ支那

大同工業は、鋼板を  
切削、加熱、伸張し  
て、左作る作業に従事し  
ている。職場は真赤に  
焼け正金の輻射熱によ  
り、年をましい位の  
高熱状態になる。

田さんの腰痛問題に取り組み、腰痛の治療のために中医研の久保一郎と艾圓正剛、ついで又、現在四肢部にテフロン熱ヘガタがターピングの先生が続いてきていました。この問題をどうするかについて3つに分けて検討することになりました。

病弱化社会のため、  
造り出されていける。した  
く作業に従事する当支  
部は、昨年組合を結成  
し、多義するケイ腕と  
取り組み、企業内保健  
を重い取つたが、大阪  
商労資本の組合が公レ  
攻撃を受け、労災闘争  
も合理化攻撃の中で苦  
剛しつづけに。  
だかひるます分会は  
同じくスケートする。  
又、検診結果から出た  
ケイ腕患者の労災申請  
を労基署に行き、現在  
認定闘争を闘つている。

# 佐野支社

## じん肺 は資本を巡る向い戻す 多數確認

全造船佐野安分会は昨秋大岩さんのじん肺認定を勝ち取つて以降も更にじん肺斗争を進め、佐野安資本を追及している。その一つとして、下請を含む全労働者へのじん肺健診を要求し、10・12月の2回にわけて希望者全員への健診を実施させた。今年1月に出た結果を本人及び分会に通知させた。が、会社側は下請労働者の結果は明らかにせず、本工についでも單に「おまえは管

理1だ、2だ」という調子で何ら説明・指導を加えなみつた。また多くのじん肺患者が殆どどの職場へもらず、

出でいたに々々めらか企業責任を明確にしていない。

分会ではこの様な企業に対し、安全の問題に限った因縁を開くなどして、全現業職場を粉じん職場とし、粉じんをなくす抜本対策、及び安全教育義務を果たす様迫ると同時に、労職研の松浦氏を講師として學習会を開いた。

この頃には会社毛下、  
\*\*\*\*\*  
は自分らで守つていこう」と一層の開いへの決意述べられた。  
やろう。自らの身体は自分らで守つていこうしみしその様な中にあつても、全港湾沿岸に亘り、も、全支部上組分会らとのじん肺交流學習会などを通じてお互いの経験を生みし合ひ、現在、昨年勝ち取つた毎年のじん肺健診職場の拡大に伴う今年の健診を介して完全に主導権を取つて実施させようと準備している。つまり、

高い値を示している。これも一つの資料として更に会社に抜本対策を要求し、勿看用の中でもじん肺協定の要求を出したが未だに会社は分会差別で、分会との一切の協定には応じない、との対応を示している。

\*\*\*\*\*

## 労働者の手で 健診は

13

健診も会社本ら聞いと  
るものであり、健診に  
伴う一切の判断の主人  
は労働者であるといふ  
ことを貫こうと、ます  
医者の選定も介会労働  
者の信任できる医者と  
いうことで、労職研に  
よる健診を要求してい  
るのだ。これには、前

の健診では最終的には会社を中心となり、結果が出た段階で最も弱い立場にある下請のじん肺患者の一部に首切りが出了反省もある。結果を管理するのもやはり労働者なのだ。

裁判斗爭

そして一方大岩氏の上級補償の民事裁判を

第三  
三

勝利をつみ重ねる中で協定要求内容の実質化をはかり協定へと結んでもうともしている。

## 全港湾建設支部

國學中華美術と開

金港考慶面地本建設  
支部治水分会は、防波  
堤に使うテトラボルト  
を作る時の外ワクのセ  
メントを落とす作業に  
従事している。この作

同じく多くの労働者及び  
難聴に罹つていて現在  
九州大学と共にして、  
複診体制を作ろうとし  
ている。

更に、大分工場では  
脳卒中による死亡災害  
が発生しており、今後  
支部とセンターでその  
対策をとるために南い  
をすすめようとしてい  
る。

業は粉じんと騒音の中で行われ、ほとんどの労働者が難聴に罹つていた。京大安全セニタリはこの調査をはじめ難聴に罹つている労働者

# 企業内保摩を叫いとる

文部省

難聴に罹つてゐる労働者を接診した。

大阪地域合同労組めぐみ園介会は、保母さんによる看護障害群

ヒ飛痛が多発している。  
当分会では、学習会  
を何回となく開催し、引  
勧者の意識を高め、企  
業保護へ休業時の賃金

現在当分会は、不当解雇を撤回させる用いを行つてゐる。  
また、Mさんがマンソン中毒であったこと本わたり、現在Mさんの労災申請をする事も進められてゐる。

という悲惨な状況があつた。この労災労働者を労基署・企業は放置したばれりえ昨年11月には首切りにしたのであつた。

者を接診した。

ぐみ 圓分会は、保母さんに養育障害群

些々会では、学習会を何回となく開催し、労働者の意識を高め、企業保険へ休業時の賃金

## 企業内保障を問い合わせる

シートを収とす作業に従事している。この作

卷之三

金著考慮面地本建設  
支部岩水分会は、防波  
堤に使うテトラボロト

同じく多くの労働者又  
難聴に罹つていて現在  
九州大学と共にして、

全江源  
建設部

詩經

医者の選定も介会労働者の借用で、その医者と  
いうことで、労研による健診を要求してい  
るのだ。これは、前

りが出て反省もある。  
結果を管理するのもや  
はり労働者なのだ。

と沿線販）を問い合わせた。

# 充實化文書宣傳

# 一北摺筋脳炎の開口一

## 三池廻事の総括から

北根洋蔵対は三池戦争の經  
験に学び、一九六四年に猪成  
され、宝山力一ホン向争を契  
機に勞災胚業病開業左舜リ広  
げ続けてきた。二の北根地域  
の開業の中から、勞災胚業病  
開業は全関西に広がり、労災  
胚業病を開う活動家交渉集会  
が過去三年間続けても止まず  
更に一九七三年九月に猪成  
された関西労働者窓口全セニタ  
実行委員会も、この北根洋

労働組合の運動の発展の中でも考へ出された。現在、北復労働組合は地域の労災・職業病問題に精力的に取り組みつつアスケティングする。そのいくつかの因いをここに紹介する。

（以下）

（略）

から  
の事務所の運動の發展の中を考え出された。現在、北復労働対は地域の労災・職業病即争に精力的に取り組みつつスケーティング。そのいくつかの通りをここに紹介する。ついでまた、当社東会議の開催の歴史は次号に詳載する予定です。

これらの中をあけた。この内に二点がじん肺病である。分公の用意の由を

この印いは、新幹線として全国的に広かりつある。又当分会は京浜・大阪の各地域労働者と共同し、労働行なげ、文部、京都のトントンキルにじん肺病を適用させた。更に、畠田の運転部分会労働者も同様に立ちあがり、パンタグラフ作業にじん肺法を適用させた。現在当分は、気吹作業中に多量の粉じ人が多生ずることを、労基署に追及し、い人肺込適用の用いを果敢に押しつけた。この内に二点がじん肺病である。分公の用意の由を

國勢大阪新幹線支那保線所  
分会は、じん肺向争に取引粗  
み出して約四年を至ふうとし  
て、いり。マル生向争の中で、  
鉄塔、御用橋台と当局に癡底  
した攻撃を受けらがうち、保  
線所分会勝利者は、勝利現場

# 國勞新幹線保線所分 人用法適用

國學新幹線

から雨の附びを防ぐ  
人肺風篋である。分念の用いの中で下請労働者に集中する劣悪な労働条件の結果として三人中一人のじん肺患者が発生していた事実がわかつた。分念はこれ以上労働者がじん肺となるまいと雨の附びを防めた。

1871-1872

じん肺

## 日帝戦争の成果は大

## 全国一般大幸銅板支那の完全競争

全国一般大卒鉛板分  
公司は、テレセのヤアビ  
ネットや酒びんのケイ  
入を鋸造する作業を行  
つてゐる。作業場は風  
呑の万ラスクの粉  
じん、重金属を含有し  
た顔料の物じんが立ち  
こめ、じん肺被疑者も  
発生していふ。

に士體を勧を繰回させ  
たり、力ドミウムの混  
入している鋼料の分析  
を行い、勞基開等の本  
使用禁止にさせよなど  
安全開等の中から、組  
合形成を行ひ歴史に  
立、乙標正しE全面  
の日常開等も幾リ広く  
られていく。

現在、プラスチック  
粉じんの立ちこめる作  
業場にじん肺病を通用  
させると前に取り組んで  
いる。又、当分会は、過去  
六年間、少數派のきび  
しい剛いの中から階級  
的意識を高め、文字通  
じて、地域の起業場所と  
や多くの支援闘争に取  
り組んでいる。

詫された。  
粉じん量の調査や、  
吸い入器の取り付けを  
さしにりし上。  
又、支木等基器との  
競争を通じて、じん肺  
検診をかちとつた。  
だがその結果、三人の  
精密検診必要の勞作者  
が発生し、直場は緊張  
し左小んいきになつた。  
その後、地域ぐるみ  
の労基局競争をくりひ  
ろげている。

## 有機粉じんでもじん肺

四四二 全国一般サントロース分会

全国一般、サンタローズ分会は、サントリニ

止さずための装備を取

三文  
上暖夜助をストライ  
キ詰否し、御用鉢合

卷之三

全国一般大卒録板分  
会や、北摂聯説の才  
ル名によつて、頑美病  
の意識は高まつた。

九段近時大會議二二二一號  
○0736-06-17-254  
豐田幸一

聖誕論方災害源流

ケイ腕と開う高櫻市正

隠り、ケイ院は脳炎病である事を健記させた。

二十三回の進行  
の中でも真場からケイ  
咲は多発した。活動家

「は苦しんで、『一体、  
どう可いは死はを防ぐ  
事がでまつ』」

勞潤は、人員増加を用  
い取る。更に休憩設

を取つたりもした。たゞ  
がしかし、なあ先生を

既業病を多數確認

高根市バス健康アシスター調査

自殺勞・高柳市販勞  
労組合は、昭和四十八年三月に、保母百三十名を対象とし、健康調査を実施した。この調査中に昭和四十七年に発生したケイケン院症候群患者に続いて、更にもう一人の患者が発生又、健康調査から、これらを訴える労働者が約8%、全身の疲労を訴える労働者に潜在化していけるものわかった。

都市交通所組、高柳市  
バス労働組合社会保償  
部は、昨年、腰痛を訴  
える労働者の実態を調  
査するため、京大連全  
セニタリ、労研の協  
力を得て、三百二十八

名医対象にアンケート調査を行った。その結果、腰の痛みを訴えた運動手は、全体の約67%を占めていた。それによれば、67%の運動手がえりでは肩かたに、倒

障害で運転できない  
障妨者は車掌として引  
きを預けている現在、  
この合理化とは、とり  
もはふさず、医業病患  
者切り捨て対策となる  
事は言うまでもない。  
現在、市バス障妨者  
は、この通りをどの様  
に進めらるか至、義封し  
てうどしている。

ある。専門の基本的問題として医業病問題を記述し、聖職者がいかんか能効者階級の自覚から、舊理論互見直せばと活動家は教育問題に立ち入り、メヌを入れ、開拓を更に展開しようと努力している。

しかし、市当局は多番期に合理化をかけ南争をつぶさうとして、や、それに付けてい

自痛友訴え、61%の車掌が声がしゃがれ、61%の整備工が寝汗をかく、枕元の運転手本工病をしていて、等の事があわかだ。

# 新たな潮流形成に向けて

## 地域ぐるみの闇へ —京滋労職対(準)の闇い—

過去、日本計算器支部、三  
豊工業支部、伊原製作支部の  
南りといん肺患者同盟の闇い  
など、労災職業病闇争は京滋  
地方に根深く浸透している。  
この歴史の上に過去三年間開  
けられた労基局闇争があ  
る。この闇いの中で、産別を

こえ、地域労働運動は  
交流を重ね続けてきて、  
地域闇争を作り出して  
きた。そして、昨年12月、  
今までの闇いを組織化  
せんと、京滋労職対準  
が結成された。

### 春には労災闇争の成果だ！

地域闇争場化する

#### 全金井上油圧支部

全金京滋井上油圧支部が5  
月7日の団交で3万2千円へ  
アラス住宅手当(2千円)の貸  
上げを獲得した。この額は全  
金京滋の中にあって、1万円  
台でにちもさほど多くないな  
い大手を屈目にトロフの額で  
ある。また賃上げはタリでな  
く短・週休の要求も前進さ

せ、年間二千百時間か  
ら一拳に千八百時間ま  
で短縮させるという快  
挙である。今や当支部  
のこの成果は京都にお  
いて全金ばたりでなく  
あらゆる労働者から注  
目を集めている。労災

たが井上油圧支部は  
この苦しみと重圧を突破  
したのである。突破  
できたのは、地域共闇  
の力と日頃彼らの労災  
職業病闇争で蓄えてき  
たエネルギーであった  
からこそである。

4月19日の団交には、  
京都マツダ労組をはじめとする地域の仲間が  
そして全金の仲間が  
人も結集した。それま30  
での4回の団交ではつま  
これ以上出せない。患

当支部も他と同様に

者は衆不審を抱いていた。労災

### 地域共闇で闇う

今春闇は苦しい闇いを  
余儀なくされた。回答  
指定日にはじまり、ゼ  
口回答が3回も続き、  
出下ものの五千円の低  
額であった。口回答が  
4月14日に有線回答が  
おなじくされ、4月14日にはじまり、ゼ

患者へ支部園谷員長と園文書をきるか」と脅迫をしたが、30人の工人が30人の労働者に顧みないとはかるに抵抗を

した。だが30人の工人が大きさり、3時半の押し回答で園文書に組合の獲得する権利を認めた上に「次回に出す」と約束させたのである。

積する」と約束したの

である。「の園文書は労

働者有利にとり、くり

かえり、との右の2回

の園文書3万2千円大

きつけたのである。

また、支部の園文書

朝ことが地域と産別の

労働者に其感を与えた

まに、4月28日の園

文には100人近くの

労働者がかけつけたの

である。其ヨを受け入

山る素地があつてはじ

めて艾ギが可能なので

ある。

井上油圧支部は今后

を更に労災配当競争

を続けていくにろう。

被害者の除去はまだま

だ二山からである。

園文書全セント一は

井上油圧支部のこの教

訓を労働者全体のもの

にしに行けばならぬ。

が当時すでに中毒で倒

れていたMさんの胸を

吐がき騒りにされた

うち二組の直営者であ

る。E.Mさんを含め

た50人の怒りの前に会

社側も二山までと観念

し、15名2万2千5

00円出す。更に次回

満足のいくところまで上

として、4月22日労使の力關係を並轍でせ

る園文書がもたらし、支

部労働者は労人とふく

山あかり、有機溶剤申

毒で半身不隨の支那組

合員Mさんも車イスで

かけつけた。前回の約

束にもかからずワ千

円の価額に思ひは爆発

した。50人の労働者は

一つ前回ワシらにし下約

束はウソガレと会社側

を取り囲んで進った。

どの真ん中でMさんは

診断書をたたきつけ、

昨年、京都では、労働者、じん肺患者同盟、京大安全センターなどで労基に何度もおしゃべりかけた。その抗議行動の中で、新幹線保線作業へのじん肺法適用をはじめとして、数々の労災認定を勝ち取った。これらは全て、資本家局におしかけた。その中には車イスで駆けつけたMさんもいた。まず、HさんとMさんにに対する彈圧に抗議した。医者に手を回して症状固定し、うち切りをしようと迫ったところ、Hさんは暴露され、労基局も答弁に窮し、苦しまざるを得ない。Hさんは「この教切り型の答弁に打ち切らなければ、労災認定を勝ち取れない」と約束され、追及し、「本人の承諾なしに打ち切らなければ、労災認定を勝ち取れない」と約束された。

5月10日、労職対へ準)に参加する職場労働者と学生30名で労基局におしかけた。その中には車イスで駆けつけたMさんもいた。まず、HさんとMさんにに対する彈圧に抗議した。医者に手を回して症状固定し、うち切りをしようと迫ったところ、Hさんは暴露され、労基局も答弁に窮し、苦しまざるを得ない。Hさんは「この教切り型の答弁に打ち切らなければ、労災認定を勝ち取れない」と約束された。

## 5/10労基局闘争報告

### 労働者の立場に立てる

いしと答えた。しかし更に「医師の意見だけでも打ち切ることを問題なのだ。本人の意見や怒りは爆発し、「通達を許さない」と重視せよ」と見せてみいしと詰められた。次に、じん肺患者同盟本部は、清水の陶器産業と府下の旧廢止鉱山に対しもつと抗議した後で、通勤災害の問題にはいづた。まず却下したところ、Hさんは「この教切り型の答弁に打ち切らなければ、労災認定を勝ち取れない」と約束された。この教切り型の答弁に打ち切らなければ、労災認定を勝ち取れない」と約束された。

理由を向かい正したところ、Hさんは「この教切り型の答弁に打ち切らなければ、労災認定を勝ち取れない」と約束された。この教切り型の答弁に打ち切らなければ、労災認定を勝ち取れない」と約束された。

5月31日午後6時、京都労館(阪急西院下車)で京滋労職対へ準)は、夜間学校への会議があります。

# 労組協力と争い

## 尼崎に根ざく同じ

在日朝鮮人 鄭(チョン)  
さんは四八九年九月尼崎の黒崎  
産業の運転手として就職した。  
その翌日、尼崎港運の駆場で  
スクランブルの磚片が左目にさ  
り失明した。鄭さんは勞災  
事故で、大型車の免許を奪は  
れ、しかも企業は見舞金九万  
円で事をすまそうとしたのだ  
。

### 争いに踏み切りに躍る

労健協は、鄭さんの相談をうけ、労災認定  
を尼崎労基署から昨年  
二月に与え取った。郑さんは、ドライカ  
ンの乾燥、換直に従事していながら頸肩腕症候群に罹った。労健協の  
群に罹った。労健協の  
請をし、労災認定を取  
ることで労基署を支拂

一九六九年、尼崎地域で片  
災・職業病を由うにめ尼崎労  
働者健康協議会を結成した。  
との因・地域公害団体の歴史  
をうけつぎ、着実に、各労働  
組合や未組織労働者の健全同  
類労災・職業病団争に取り組  
んできた。

昨年、八月に、や五回目の  
経験交換会を持ったが、この  
にハの名もの労働者が  
参加し、熱氣ある討論  
がくり広げられ、終了慶  
源除去と駆場完全活動  
の強化、さらに地域共  
同強化と未組織労働者  
への連帯が基調報告さ  
れ、参加した人々に確  
認された。以下労健  
協の主要な因いの報告。

労健協は、鄭さんの  
相談をうけ、労災認定  
を尼崎労基署から昨年  
二月に与え取った。郑さんは、ドライカ  
ンの乾燥、換直に従事していながら頸肩腕症候群に罹った。労健協の  
請をし、労災認定を取  
ることで労基署を支拂

重ね、鄭さんのため  
に軽作業に従事させようと  
労基署と企業に要請し  
たが、企業はもちろん、  
労基署も何の対策も取  
らなかった。

今年二月、鄭さんは  
神戸地裁へ訴訟を提出、  
尼崎港運と黒崎産業に  
対し損害賠償額千五  
百万円を要求した。

六月二十七日、や一回  
公判が開かれます。

力)は労健協まで  
山崎さん労災  
認定何い取る

日新宿駅近くで働く  
山崎さんは、ドライカ  
ンの乾燥、換直に従事していながら頸肩腕症候群に罹った。労健協の  
請をし、労災認定を取  
ることで労基署を支拂

管子

前川進む全金富士鋼管支那

全金・富士鋼管支部  
は徹底した安全活動を  
統けている。

する意識は向上した。

また、同支部は昨年  
6月、資本と労働者が  
ごつちやになった安全  
衛生委員会より、労働  
者が安全衛生を労働運  
動の一環として行うた  
めに、労働者だけで、

活動が不十分な状態で  
あつた。企業もそれを  
いい事に安全教育をサ  
ベリテいた。

執行部は昨年12月に  
組合員7名と執行部1  
名から成る安全委員会  
を作り出し、代議員会  
で了承を得た。さらには  
会社側と交渉をもち、  
災害防止についての確  
認をした。

執行部は昨年12月に組合員7名と執行部1名から成る安全委員会を作り出し、代議員会で了承を得た。さらには会社側と交渉をもち、災害防止についての確認をした。

また安全委は職場安全ハトルールをし、33

支部の定期健診は、労働者が指導権を持ち、職場労働者が自主的に健診内容をきめて、労働協に参加している医師が健診を行う。また、職場の安全ハトロールも、毎週安全委を含め支部長・書記長らが行つていい。危険な箇所や作業を指摘し、設備

改善を行つてきた。さらには、五年前又ら、業務災害が発生した場合には、どんななさいな事も調査表や報告書を作り、企業にも確認の印をふさせていた。

こうして用いの中で、職場労働者の安全に關

自らの死を無駄にすむ

安全斗争哲理

この用いの集積が數  
数の職業病や労災の発  
生を未然に防いでいる  
といえる。

昨年11月に、同支部の労働者が大やけどをした。この労働者は一人で作業中に災害にあ

ためとの事であった。

つた。病院に入院し、植皮を行つたが今年1月に死亡した。  
死因はやけどによる  
乙肺の機能が低下した。

及ねたぬ安全闘争は  
重要なものと、5人の  
執行部を安全委員にし  
ていたが、執行部活動  
におれ、日常の安全

勞健協二工一又施行

連絡 06-492-0122  
高橋まで

卷之三

4月会計期終

收入

会費	57195
力人税	30045
機関誌	36825 (+)
小計	124065
先月よりくりこし	164389 (+)
合計	288454 円

支出

人件費	※	140000
活動費(会場費・交通費等)		17924
事務用品(含郵便・電話料)		51342
機関誌(紙・インク代)		6970 (+)
合計		216236円

\* 人件費未納(4月始) 205000円

\*会員・機関誌代未納の方は納入を!!

今号は各地域の単元の現状を特集しました。今後も各地のいろんな単元をたくさん載っていきたいう様な機関誌をつくっていきたいと思ふています。尚、今までシリーズで行った学習のページも特集にまとめ、単元に利用しやすい形にするつもりです。

編集後記

資料紹介

**資料紹介**

は左記の資料が揃つてあります。まだまだ不充分ですが序々に充実させていく予定です。園・学習にどんどん利用して下さい。(コピー機械などもありますので複数でります。ただし、財政上から実費を頂きますが諒承下さい。)

（有様じん肺の資料もありま  
す）  
諒承下さい。

（左記の資料を揃つていま  
す。まだまだ不充分ですが、  
いく予定です。開り・学習に  
下さる。（コピーライ特なども  
できます。ただし・財政上から  
）

以上についての医学的・科学的文章及び、各地各職場での労災・職業病用争のとりくみの報告。その他に雑誌・本もあります。

労働の科学  
産業医学  
のうち  
民主法律  
の裁決例、理論  
子本・雅説(いふ)  
など

もう読み終えられた資料などありましたらゼンタリへ!!